国語科における見学旅行のもつ意味

——奈良・京都見学をいかに実施したか——

畑　　実・鈴木洋一郎・酒井為久・佐藤クニ子

Ⅰ　は　じ　め　に

昨年度われわれは学習困難点の分析をしてその一端を本校の紀要で報告した。今年度はその対策を講じつつあるわけであるが，その対策の1つとして表題の件を昨年度から実施することになった。これは国語科が中心となり，社会科・芸術科の協力を得たものである。昨年度はその手始めとして日帰りの奈良地方見学旅行を実施した。その詳細を報告し，今年の分をさらにそれに追加するのが順序であろうが，紙数の制限もあり，時日も経過したこととて記憶も薄れており，また今年度のは昨年度のやり方をほとんどそのまま踏襲していることでもあるので，昨年度の分は省略して今年の実施経過を述べることにする。昨年度は日帰りであったにもかかわらず多大の成果を収めた。昨年度の反省に基づき今年度は1泊2日にして，よりいっそうの効果をあげようとしたのである。

Ⅱ　奈良地方の見学

1．目　　的

①古代文学発生の自然，風土を探訪して記・紀・万葉などの古典の理解・鑑賞に資する。②大和文化特に古代美術作品を鑑賞する。③現代文化人の芸術鑑賞文・紀行文を理解し，みずからも創作してみる。

以上のことを達成する事前に，またその事後に，④図書館の資料をよく利用し，⑤レポートの書き方を身につけ，⑥おおぜいの人の前で話をしたり，人の話をきく。

要すれば，広く視聴覚的教育を身を以て体験し，国語科における古文と現代国語，聞く，話す，読む，書くことの綜合的な取扱いをしてみようとしたのである。

2．参加人員・期日

高等学校2年全員103名，国語科教官全員，社会科教官1名，担任教官。10月1日(日)2日(月)の1泊2日。

3．見　学　箇　所

①コ　ー　ス

第1日　（　）は遠望

名古屋 — 室生寺（安騎野）——大野寺——長谷寺（三輪山・つば市・大和三山・藤原宮趾）——浄御原宮趾——飛鳥寺——石舞台（川原寺・丸山古墳・橘寺・久米寺）——橿原公苑宿泊所（八紘寮）

第2日

宿舎（竜田山・竜田川・二上山・信貴山・葛城山・平群山）——法隆寺（民家・溜池・環濠聚落）——中宮寺（法起寺の塔）——薬師寺（垂仁天皇御陵・秋篠川）——唐招提寺（春日山・若草山・高円山・纒向山・佐保川）——秋篠寺（法華寺）——奈良駅

②ね　ら　い

ア．国語科として古典，現代国語に出てくるところをできるだけ多く取り入れようとした。

イ．建築・彫刻として有名なものもしくは代表的なものをみようとした。

ウ．歴史の流れが（文化史を含めて）たどれるようにしたい。たとえば法隆寺・薬師寺・唐招提寺の順は，飛鳥・白鳳・天平の各時期の特色の比較・進展をみるのによい。

エ．あわせてこの地方の人文地理的な特色も学びたい。

4．事　前　研　究

①図書館の一角に特別コーナーを設ける。

「奈良・大和路の魅力」（中村直勝・淡交新社）「万葉集大和地誌」（北島葭江・筑摩書房）「古寺巡礼」（和辻哲郎・岩波書店）「大和路」（滝井孝作・宝文館）「大和巡礼」（小島貞三・大和史蹟研究会）「大和めぐり」（日本交通公社）「大和古寺」（井上政次・角川文庫）「大和古寺風物誌」（亀井勝一郎・新潮文庫）「大和のくにばら」（藤田経世ほか・河出書房）「岩波写真文庫」7冊・美術全集・地図等を陳列して館外への持出しを禁止した。

②美術科で2時間。スライドを使用して建築・彫刻等の説明を行なった。

③社会科で2時間。見学地の歴史的・地理的な説明。

④国　語　科

イ．「中宮寺の観音」（和辻哲郎・古寺巡礼）を学ぶ。2時間。

ロ．一斉学習，2時間。「旅行の栞」（コース順の地図・有名な歌などを記載）をもとにして，見学地と文学（古代から現代までの）とのつながりについて説明した。旅行後グループ別にレポートを，個人毎に紀行文か感想文を出させるからよく観察するように注意した。

ハ．グループ学習，3時間。

研究対象をa美術鑑賞，b歴史，c人文地理，d万葉との連関，e万葉以外の作品との連関の5観点にしぼり，それぞれの希望者が集ってグループを作った。1グループを5人位にした結果，次のようなグループができた。

美術鑑賞班6，歴史班4，人文地理4，万葉とのつながり4，万葉以外の作品とのつながり3。題目の1例をあげれば「塔の比較研究」，「3つの観音像」（の比較研究）などがあり，変ったところでは「仏と落書の研究」などがある。それぞれのテーマにしたがって，図書館でグループ別に研究した。

5．実地見学

上述の個所をバスと徒歩で廻った。第1日目はとくに郷土史家小島貞三氏を指導に仰いだので非常に有益であった。宿泊所の大広間では夜の1時を話し合いにつかった。全員が車座になり第1日目の感想を述べあい有意義であった。各グループ別に巻尺ではかるもの，写真にとるもの，スケッチするもの，メモするもの，説明人に質問する等，きわめて熱心に見学した。

6．事後整理

①レポートの完成，2時間。あわせて研究発表のための草案を練る。

②個人別に紀行文または感想文を書く，1時間。1時間なので構想を練ることと，書き出しのくふうにつかった。あとは家庭作業にした。レポートも作文も日曜をはさんでの月曜日に提出させた。

③研究発表としめくくり，3時間。

各グループ毎に代表が1名ないし2名出て研究・調査したところを発表しあった。持時間は質疑応答を含めて15分とした。プリントを用意したり，図表・引伸し写真・スケッチを用意したものが多かった。いずれも地についた着実なものであった。また聞く方も熱心で，活発な質疑応答がなされた。

④文化祭に参加。

11月上旬に行われた文化祭に1室をとり，写真・図表・スケッチ・レポート・作文を展示したが，全校生徒の注目をあびた。

⑤優秀作品を学園誌「耕」に載せた。

7．その結果

①調査の結果。本学習がすんでからこんどの旅行について調査をした。その結果の主なものを次にあげる。

ア．費用1700円弱にしては内容が充実しており毎年つづけるとよい。94名。

イ．見学個所はあのくらいでちょうどよい。59名。多すぎるからへらすべきだ。32名。

ウ．見学効果について

○いろいろな点で効果があったが，とくに実際にみて感動し親近感がもてた。71名。

○特に印象に残ったものを3つあると，室生寺，53名。薬師寺，44名。法隆寺，44名。中宮寺，36名。飛鳥寺，36名。秋篠寺，29名。

○寺で印象に残ったのは建築美，50名。仏像，34名。あのムードがよい，16名。

○仏像で最もよかったのは，中宮寺観音，39名。百済観音，19名。飛鳥大仏，16名。伎芸天，10名

○仏像様式では何期がよいか，飛鳥期45名。白鳳期，45名。白鳳期，33名。天平期，13名。

○見学地でどの地区がよかったか，飛鳥地方，30名。法隆寺・中宮寺，25名。室生寺・長谷寺，23名。西の京，22名。

○記紀・万葉等によまれるだけのよい自然環境である，48名。そうでもない，40名。

○古典の読解・鑑賞に役立つ，67名。たいして参考にならない，19名。

○和辻氏の「古寺巡礼」のような芸術鑑賞文を読むときの参考になる，81名。

○紀行文・感想文などを書くときの参考になる，56名。

○小島氏の案内が非常によかった，97名。

○事前授業，事後整理のやり方はあれ位でよい，49名。もっと時間をかけるべきだ，39名。

②綜合的に

天候に恵まれ時期としても寒からず暑からず，観光シーズン前であったこと，日曜日にあまり人の行かない辺鄙な室生寺・長谷寺・飛鳥地方を，日曜日ならさぞ多いことであろう法隆寺・西の京地方を月曜日に廻った。どちらも人が少なくて他の見学団に見学を邪魔されなかったことが大きい収穫を生んだ。生徒の作文を読んでも，生徒のいうところを聞いても今回の旅行に非常に感動をおぼえたことがよくわかった。そしてあれほど身を入れてやった感激は忘れられないといっている。またレポートも形式的にも内容的にもすぐれたものが多かった。紀行文・感想文にしても主体性のある感動のあふれたもの

が多かった。事前研究・現地での見学・事後整理と一貫して真剣に取り組んでいたのは特筆に値する。これを要するに最初に意図した国語科における総合的な取扱いの目標がほぼ達成されたものと思う。また旅行とか見学とかのエチケットも身につけ，団体旅行のよい訓練ともなった。

③今後のために

宿泊所がもとの八紘寮で堂々たる建物で広々と清潔な閑静な建物で，今回の旅行にふさわしく，来年もぜひ利用したい。

小島氏を指導に仰いだことはよく，来年もぜひお願いしたい。各寺での説明が職業化したのと好対照で，一日にして大和時代の歴史の概観を頭の中にたゝみこまれた。今後は教官も説明役に廻るのが望ましい。

見学個所ももっとへらすべきだという意見も相当あったことなので〝来年はもう少し精選して時間を有効に使いたい。

また研究グループのわけ方にも一くふうをしたいと思っている。

Ⅲ　京都地方の見学

1．目　　的

①平安文学をはぐくんだ自然，風土に接して古典鑑賞力を養うようにする。

②京都文化の特質を探訪する。

③現代文化人の芸術鑑賞文や紀行文を理解しかつ創作する。

2．参加人員・期日

高等学校1年全員99名，国語科教官全員，社会科教官1名，担任教官。11月20日(月)の日帰り。

3．見 学 箇 所

①コ ー ス

名古屋——（瀬田川）大津——（三井寺・長等山・近江神宮）——比叡山根本中堂——（琵琶湖・近江遠望）——四明ケ岳頂上——（京都市街遠望）（山中越・鴨川・京都市街・西陣）——竜安寺——（広沢池・大覚寺）——清涼寺……（北嵯峨野散策）……嵯離庵……（小倉山）祇王寺……二尊院……落柿舎……（竹藪）野宮……天竜寺……嵐山——（二条城・西本願寺）——京都駅

②ね ら い

対象学年の1年生が興味を持ちながら見学でき，その効果を上げられるコースを設定した。時間の制約があるのでバスを主体にし，京都の町の多様性に触れられるようにしたが，同時に落ち着いて京都のよさを味わうことが出来るよう，比叡山・竜安寺・嵯峨の3つの下車地では充分の時間をみたのである。

4．事 前 研 究

①レポートを提出する。

見学コースの説明をしてから，各自に見学地1箇所を選ばせて，そこについてのレポートを提出させた。同じ見学地を選んだもののグループ研究が望ましいが，強いてグループを作る必要はなく自主的に調査研究するよう指示した。1週間の期限をおいて提出されたレポートは事前に目を通したが，テーマにした問題を発展的に捉らえようとしたのが⅓程度あったが，同数ほど焦点の合わない感じのものがあった。グループによる研究は3編あり力作であった。

②国語科の授業

国語乙の範囲を中心として授業を行った。

大津方面……人麿の長短歌，平安文字と石山寺，園城寺，軍記物語，芭蕉の作品

京都方面……○小野，大原

○嵯峨，平安の物語文学，歌枕小倉山をめぐる中世の和歌，軍記物語，中世の随筆や劇，芭蕉の作品。

などの古典について抜粋をプリントにして2時間，さらに京都の文化特に寺園の鑑賞について1時間指導をした。

このほか，国語甲の時間に紀行文（感想文）の書き方を考えた。そして見学後に実際に書いてみるからその心構えで見学するように注意した。

③視聴覚教材による授業　2時間。

「旅に学ぶ」（1巻）京都と奈良（2巻）

京都の庭（2巻）　いずれも16ミリトーキー映画。

④社会科の授業　1時間。

見学地の歴史的・地理的な説明。

⑤図書館の資料の陳列

イ．岩波写真文庫　京都と滋賀

ロ．日本の寺　京都（美術出版社）

ハ．京の魅力（中村直勝）

ニ．源氏物語　賢木の冒頭（谷崎源氏）

ホ．謡曲　野宮

ヘ．嵯峨日記の一部

ト．平家物語　小督，祇王，横笛

チ．京都の名庭（重森完途）

⑥授業時（国語乙）のプリント

イ．大津付近から比叡山まで

過近江荒都時柿本朝臣人麿作歌

忠度（読み人知らず）の歌　幻住庵記

ロ．京都

平家物語　祇王，小督，横笛，灌頂巻

伊勢物語と源氏物語の一部
嵯峨日記と徒然草の一部
歌枕小倉山の歌　14首

5．実地見学

上述の所をさほど混雑なく見学した。比叡山・竜安寺・嵯峨野の秋が深かった。生徒は竜安寺の石庭に最も関心を持ったようである。所によっては観光地化しているところがあり気を散らすものがいたこと，バスガイドの説明が表面的であったことが遺憾な点であった。後の調査では55%がもう一度見学したいと積極的な気持を示し，もう行かなくてもよいとするもの6%であった。

6．事後整理

①紀行文（感想文）を書く

事前に提出したレポートと内容の面で照応し，一層発展した紀行文となるよう指導した。優秀作は学園誌に発表することにした。

②ホーム・ルームでの反省

見学旅行の途次，ホーム・ルームの気風の善悪が明らかとなり反省のよい機会がおとずれた。このことについて進んで反省する契機を与えたことは，直接的な効果の一つであった。

③京都見学についての調査

京都見学についての調査を行い，合せて話し合いも試みた。

調査項目だけを列記しておこう。

①期日　季節，時期，出発，帰着
②費用
③見学個所　多寡，希望
④見学時間
⑤見学について　意見，感想
⑥見学の効果　印象
⑦国語学習　読書，事前準備，班別行動，指導について，見学地での説明について，事後整理
⑧その他

以上について詳細な調査を行い，それぞれ有益な結果を得た。

6．その結果

結果を簡単にまとめよう。費用（1200円）のことについては，62%が普通だから毎年行ってもそれだけの価値があるとしている。25%は1泊してもよいとしているが，2・3の者が中止したらよいといっている。

見学地の印象はまちまちである。その原因は個人差にも求められようが，見学態度の不一致によると思われるふしもある。これは一部に事前の準備をなまけたものがいたり，見学地での説明の不充分さに起因するように思われる。高1の年令では無理かと思われた竜安寺の石庭の鑑賞が落ち着いた雰囲気のもとに適切な解説でなされた結果，わかりかけてきたようだというものが多い一例から推して判断してほしい。

全体として，あわただしい感じという者が多かったのは1回目の試みとしてはやむをえないところである。今後の課題としては，古い文化財があるから尊いという気持の外に，文化財を見てわれわれが種々に思索を練ることも尊いのだという気持も養う為に，それ相当の見学地に限定し充分に時間をかけることが必要になってくる。

最初から眼に見えた効果は期待していなかったが，各自がそれなりに伝統の一端に触れえた意義は大きい。それが育ってゆくだろう暁にこそ期待しているのである。

Ⅳ　ま　と　め

奈良・京都見学の実施についての大要を報告した。これらの見学を通して，国語学習活動を高めるにはどうしたらよいか，又どう実際に指導したかを考えかつ反省したのである。奈良見学の方は2回目であり，比較的まとまりのある地域と時代の推移を追いやすい利点から，総合的な学習効果を上げることが出来た。京都見学については，初の試みであり見学地の選択も地理的，時間的に奈良より複雑な操作が必要で，今後の問題が残った。

奈良・京都という格好の見学地を近くに持ち，見学日程を組みやすい学校の特殊性など好条件を利用して，国語の学習活動を効果的に行うにはどうするかという問題を扱ってきたわけであり，これは視聴覚教育研究につながってゆく問題でもある。